

第2回新県立体育館整備基本計画検討委員会 議事要旨

1 日 時

令和5年3月23日（木）午後2時から午後4時まで

2 場 所

秋田県議会棟大会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委 員

熊谷 嘉隆、高橋 義雄、尾崎 宏樹、田中 志穂、佐藤 慶子、長沼 優、水野 勇
気、納谷 信広 以上8名

（2）事務局

観光文化スポーツ部次長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課スポーツ振興監、
スポーツ振興課新体育館整備班

4 内 容

（1）委員長挨拶

- ・ 第1回検討委員会では、各委員から活発な意見をいただいたが、その様子は多くの報道機関に取り上げられ、2月県議会でも質疑があるなど、新体育館は全県民から注目されている。
- ・ 本日は、前回の意見も踏まえ、早めに方向性を決める必要がある事項に絞って議論を進めていきたい。

（2）報告事項

- ① 新県立体育館の整備に係る参考資料集について ※資料説明のみ・質疑なし
- ② デジタル技術の活用事例について

<委員>

- ・ 競技視点で申し上げると、自動トラッキングは整備可能な技術である。デバイスをつけて心拍数等をチェックすることは日常的に行っているわけなので、それにカメラを組み合わせたスポーツ科学の機能について、どの競技で活用できるようにするか、詳細を詰めていく必要があると思う。
- ・ アリーナという考え方では、ビジョンは必須のものとなっているが、それらをどのように活用するのか、演出用として使うのか、あるいは、アマチュアスポーツの決勝戦でも使うのか、そのいずれにしても、技術者が必要になる。
- ・ 新体育館が完成する頃には技術も相当進化しているので、変わることを見据えた整備ができるかどうか肝要である。

<委員>

- ・ バドミントンでは、こうしたデジタル技術を活用しているところはないという印象があるので、活用できたらとても良いと思う。現在の練習環境では、観覧席がないため競技フロア上でビデオ撮影をしているが、それではフィードバックが難しい。
- ・ 新体育館の建設に当たっては、1周ぐらりと回れる観客席から、分析のためのビデオ撮影ができるようになれば良いと思う。

<委員>

- ・ 中学生の大会でも、全国大会レベルになると演出的な要素を入れることでプロスポーツの雰囲気近づけて、モチベーションを上げている。秋田でもそういうことが可能な施設を作ってもらえれば良いと思う。
- ・ 観客目線で活用できるようなシステムがあれば素晴らしいと思う。

<委員>

- ・ 既存体育館の問題として、観客が多くなると通信環境が悪くなり、デジタル技術の活用が厳しくなる。
- ・ 観客4,000人規模のWi-Fi環境を民間で整備する場合のコストを調査したところ、年間数千万円の費用がかかるということで断念せざるを得ないため、多数の来場が見込まれる施設を整備する場合は、それ相応の通信環境の整備も念頭に置いていただきたい。

<委員> ※欠席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ 今後の体育施設において、デジタル技術の活用は必要不可欠と考える。ただし、デジタル技術は日々進歩しており、設置した瞬間に陳腐化すると言っても過言でないと思う。よって、陳腐化しやすいと思われるカメラやコンピューターなどの入出力部分はその時代の標準スペックで対応して良いと思う。時代の進展に対応した標準スペックの更新の頻度を上げていくことが重要だと思う。
- ・ 新体育館のデジタル技術活用で重視して整備すべきは、カメラの設置位置や数、それらを繋いで解析装置にもっていくネットワークなどの基幹部分だと思う。有線ケーブルによるネットワーク構築は最低限であり、ローカル5Gや今後想定される6Gなどへの対応が可能な基盤整備をお願いしたい。

<委員長>

- ・ デジタル技術の導入については、目的ではなく手段であり、その先に何をしたいのか、共通認識を持つのが大事である。
- ・ 観客目線でいえば、来場者が、肉眼では捉えられないレベルの細かい動きまで見えるようになることで、そこでの体験の質が高まることになる。
- ・ 新体育館は、県民が誇れる施設であってほしいし、競技者目線でいえば、選手やチームのパフォーマンスを最大限に引き上げるツールとしてのデジタル技術が必要になると思う。
- ・ 幾つか指摘があったが、オペレーションコストを要するわけであり、その点を視野に入れて、リソースの中でどのように運用していくのかということだろう。

③ 県民意見について

<委員長>

- ・ 私から、幾つか意見を紹介したい。
- ・ No. 58 の「子供たちに夢、希望、感動を与える場所、機会がないと底辺の拡大につながらない。従って新体育館建設にあたっては子供たちのためになる物にして欲しい。」という意見。厳しい県財政の中でどうするかという意見がある一方、この意見のように、次の時代を担う世代への投資、秋田を元気にしていくための施設の必要性を指摘する意見であると思う。
- ・ No. 63 の意見は、駐車場に対する不満であり、新体育館では駐車場を十分検討して欲しいという意見であると思う。
- ・ No. 71 のように沖縄アリーナに言及している方が多い。素晴らしい施設であることが伝わってくるが、ぜひ一度行ってみたいと思えるような施設を整備して欲しいという意見であると思う。
- ・ No. 77 では、トイレの数が今は全然足りていないので充実して欲しい、障害者にも配慮した施設にして欲しい、天井吊り下げ型のビジョンが欲しいという意見がある。また、冷暖房の必要性も指摘しており、これは他の意見でも目立つ。そして、最後に、他県からの観戦客もまた来たいと思うような施設をお願いしたいとあり、これは、検討委員会の我々に対しても心強いメッセージであると思う。
- ・ No. 84 では、建設場所は八橋を希望するとあり、これは前回の検討委員会でも議論したわけであるが、県費負担の低減についても意見があり、その部分で、個人出資の枠を設けてはどうかということ、これはクラウドファンディングや寄附のことだと思うが、これについても今後検討していく必要があると感じた。
- ・ No. 85 では、渋滞と違法駐車の問題が指摘されており、事態は相当深刻なのだろうと受け止めた。この部分は、情報を集め、皆さんからいろいろと知恵を出していただいて解決を目指していかなければならない。

(3) 意見交換

① 機能・規模・整備費・財源の組み合わせイメージについて

<委員>

- ・ 例示された両パターンについて、整備費の差はあるが、その後の管理維持費は50年かけて大体同じくらいになるだろう。管理運営をどのようにするか、自治体ではなく、その費用を管理運営する企業体から拠出してもらうことも含めて考える必要がある。
- ・ 建物の償却を50年と考えると、そのときの秋田の人口規模や都市規模をイメージすると、大きなものでなくコンパクトなものを整備し、デジタルトランスフォーメーションを活用するという対応が必要になるのではないかと。その点、沖縄アリーナは、規模は大きいですが、参考になると思う。
- ・ 言葉の使われ方として、「売店」と書かれてしまうと、自動販売機のように思える。国のスタジアム・アリーナ構想では、クラブショップなどが想定されるので、国の方針にあった適切な言葉を選んでほしい。
- ・ デジタル技術のスペックについて、どのようなものがあれば管理運営する側にとって使い勝手が良いか、サウンディングが必要になる。体育館とメインアリーナでは、機能も使い方も変わる。その辺をはっきりとイメージして施設計画に落

とし込まないと、どちらも中途半端になることが危惧される。

- ・ 新体育館は、芸術作品ではないのだから、仙台のゼビオアリーナのように、簡素で機能を重視するという発想が大事である。

<委員>

- ・ 他の委員も指摘しているとおり、今後の県の負担などを考えると、コンパクトなものが良いと思う。
- ・ トレーニング室と体力測定室は必ずしも区分する必要はなく、むしろ同じフロアにあることで、トレーニングして即座に体力測定ができるというメリットがあり、トレーニングをしながら体力測定を行い、それを分析することで、知見を広く共有するという活用方法も可能となる。どちらのパターンにしても、トレーニング室と体力測定室の一体的な運用を検討しても良いのではないかと。
- ・ 動作分析の紹介があったが、これまでは身体に反射材やマーカーを張って、それをキャプチャすることで細かい動作を測っていたが、最近は、AIで骨格推定ができるレベルになった。どちらにしても、スポーツバイオメカニクスの専門家がいないと、そうした技術も宝の持ち腐れになってしまう。技術者を確保し続けることが必要なので、その点も含めて予算化することを検討しなければならない。

<委員>

- ・ スポーツをする側の意見としては、財源を重視するパターンでは物足りないので、規模を重視してほしいというのが率直な感想であるが、人口減少を考えると規模を縮小した方が良いという考えにもなる。
- ・ 財源を重視する場合のパターンでは、体育館は練習場になるイメージがあるが、バドミントンはコート数が必要になるので、試合で使うことは難しい。
- ・ アリーナ側では控え室兼会議室となっているが、バドミントンの場合、男女で24チームとチーム数が多くなるため、控え室をチームで分けることができなくなる。観客との動線も、財源を重視するパターンでは区分できないのではないかと。

<委員>

- ・ 仮に、二者択一であるならば、財源を重視するパターンを選ぶ。秋田県の実情を考えると、費用負担がネックになる。
- ・ 中体連専門部の意見をまとめると、バックヤード、控え室、会議室を増やしてほしいということになる。削るところは削り、増やすところは増やして、それをこの規模の範囲内で検討していけば機能化が図られるのではないかと。

<委員長>

- ・ 事務局から示されている2つの案は、あくまで例示であり、最小と最大のパターンを示しているものである。よって、今後の情報収集によっては、この間にあるプランも議論の選択肢としてあり得るわけであり、決して2択ではないと理解しているが、事務局の意図はどうか。

<事務局>

- ・ そのとおりであり、まずは委員に自由に議論していただきたい。

<委員>

- ・ 14,000㎡と20,000㎡は最小、最大の事例ということであるが、有

利な財源の活用という観点では、14,000㎡を超えると財政負担が大きくなるという難しい側面もあると考えている。

- ・ アリーナの席数も大事であるが、体育館とスポーツ科学センターの機能がこれで十分なのかどうかを議論をしていく必要がある。そういった機能をしっかりと維持していただきたい。
- ・ 試算しているコストは、新体育館本体のイニシャルコストであると思うが、駐車場や交通アクセスの問題を解決するためのコストも必要になる。また、ランニングコストについても、規模に応じてどれほど増えるのか、また、席数が多くなることでどれくらい歳入増になるのか、議論が必要と感じる。そういう議論を進めていくためにも、今回、わかりやすい資料を提示していただいたと思う。

<委員代理>

- ・ 財源と規模の極端な例を2つ示してもらっているが、最適解を見つけるためのシミュレーションをいくつか示してもらえるとありがたい。
- ・ 質問になるが、財源を重視するパターンをベースに考えた時に、席数を増やしていくと、財源以外で色々な制約が出てくると思うが、どういう制約が出てくるのか具体的に示していただいた上で、いくつかのシミュレーションを提示していただくとありがたい。また、沖縄アリーナの話があったが、財源や周辺施設との関係性が違うのではないか。その点も整理した上で、秋田の参考になるかどうかをはっきりさせて議論を進めると良いのではないか。

<事務局>

- ・ 他のシミュレーションについては、検討中のため、後日お示ししたい。
- ・ 沖縄アリーナについては、施設整備だけで162億円であるが、基地に隣接しているということで、防衛省や内閣府関係の補助金があり、それら国の補助が合計136億円、結果、沖縄市の持ち出しは26億円となっている。
- ・ 周辺には、以前から市民利用の体育館が整備されており、それに加えて新しいアリーナが整備されている。

<委員>

- ・ 前回も申し上げたとおり、理想はできるだけ大きく、本当は8,000人規模、国際大会が開催できるレベルが理想であるが、財源の問題も十分承知しており、これをどうにかしていきたい。
- ・ 財源の確保も含め、場合によっては、我々も含めた民間で何かできることをやってみて、できるだけ規模を大きくしつつ、控え室などの機能も充実させて、その上で、公適債を活用できるやり方を模索したいところである。

<委員>

- ・ 財源を重視すると中身が伴わず、中身を求めると財源がかかるという印象である。必要なものを足し上げていった先に妥当なレベルを見出すことができれば良いのではないか。
- ・ 座席数だけでなく、器具庫なども必要であり、更衣室や会議室が少ないとチームや運営側は不便である。
- ・ 障害者スポーツの立場では、一般のスポーツと比べて関係者が多くなるため、関係者用の諸室が必要になる。また、異性の親子で着替えをしなければならない場合、男子更衣室や女子更衣室は使用できず、親子更衣室、家族更衣室などが必

要になるので、そうした機能も取り入れてもらえるとありがたい。

- ・ 7,000席という規模は、現実的でないと思う。障害者用の座席数については、観客席の総数に応じて整備されることになると思うが、専門家の意見だけでなく、当事者の意見も聞いて欲しい。

<委員> ※欠席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ 活用できる国庫補助金等を最大限活用し、本県の持ち出しをできるだけ少なくできる中での最大規模を模索すべきと考える。
- ・ 少子高齢化が進む本県のみならず、想定以上のスピードで出産数の減少が進む日本にあって、新県立体育館の耐用年数内であろう20年後、30年後に県民の一人当たり負担が県予算に対する割合で現在の負担の2倍3倍になるような計画は好ましくない。また、人口減少が進む中で、7,000人を超えるような座席をすべて埋められることが現実的に可能なのか検討する必要もあろう。
- ・ スポーツ協会としては、以上を踏まえた上で、現在の県立体育館と県スポーツ科学センターが有する大会運営能力、各競技団体が必要とする備品等の保管等が可能な規模をお願いしたい。

<委員> ※欠席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ 2つのイメージが示されているが、盛りだくさんと捉えられるかもしれないが、機能や規模を重視していただきたい。
- ・ 新しい体育館が、県民の健康の維持増進、競技力の向上などを牽引し、県全体の活力を創造する拠点になってもらいたい。
- ・ アリーナ、体育館、トレーニングセンター、医科学的診断やサポートなど、複合的かつ多様な役割を果たす施設であってほしい。
- ・ 県高体連としては、運動部活動加入生徒が今後減少する中であっても、運動部活動の普及と活動する生徒の育成と競技力の強化が連盟としての事業の柱であることから、専門部のアンケートにもあるように広い競技フロア、各種の競技に対応した施設や設備を備え、科学的な指導や研修、活動、トレーニングがこれまで以上に充実するようであってほしい。

<委員長>

- ・ この論点は、検討委員会の中で肝となる部分である。現状ベースで考えると身の丈に合った施設とするべきという意見になるが、先ほどの県民意見にもあり、未来への投資として、秋田を元気にするために必要な施設という視点もあるので、この点は、引き続き、県民意見、委員の皆さんの意見をお願いしたい。

② 優先利用（年間利用カレンダー）のイメージについて

<委員長>

- ・ 若者に人気のあるグループのコンサートは、その準備にこれだけの日数を要するということが初めてわかった。

<委員>

- ・ 使用料の価格設定がポイントになると思う。誰でも同じ料金なのか、プロは高くするのか、そういう収支についても議論した方が良い。
- ・ 観客目線とプレーヤー目線でのディスカッションが並行して行われることにな

るが、事務局提示の利用シーンをみると、明らかにカテゴライズされるわけであるから、維持費に加えて、どのような収入が見込めるかということが重要なポイントになると思う。

<委員>

- ・ セキスイハイムスーパーアリーナからコンサート需要を取ってくることは難しいと感じた。秋田はスポーツチームが多いので、トップリーグやアマチュア大会を中心にしたい。子供たちが将来プロになった時に、この場所で、観客の前で、プレーしたいと思ってもらえるよう、県総体や県大会の際に新体育館で試合ができるとすれば、夢が広がると思う。
- ・ 11月に大会が多く開催されているので、うまく振り分ける必要があると思う。

<委員>

- ・ 県総合体育大会が重要であり、東北大会も、高体連は6月から各種目持ち回りで開催され、中体連では8月前半に開催される。中体連では、今年度の夏に全国大会も引き受けたが、それは9年に1回程度である。
- ・ 中体連と高体連の大会を開催させていただきたい。周辺に体育館が多くあるわけではないので、決勝レベルで使用するという話もあったが、県大会に出場が決まればアリーナで試合ができるという夢や希望を子供達に持たせたい。

<委員>

- ・ 施設管理の観点から、市の施設でも様々な大会の日程調整が大変である。
- ・ 大規模なコンサートは、予約は2年前になる。早い段階から誘致しないと大規模なコンサートは誘致できない。そうすると、早い段階でスケジュールが仮抑えとなり、プロスポーツや大会の日程調整が難しくなる。施設の目的は、ある程度絞って運営した方が、スムーズな管理・運営ができるのではないかと。

<委員代理>

- ・ トップスポーツを中心に据え、アマチュア大会に十分配慮した形とした上で、イベントやコンサートが拒否されないような形態であれば良いと思う。
- ・ メッセ機能を併設した施設にしてもらいたいので、そうした使用が否定されないのであれば、トップリーグとアマチュア大会を重視するイメージが良い。

<委員>

- ・ 新B1では2年前に109日を確保する必要があるが、数か月後には60日に絞り込むこととなる。また、前回の検討委員会でもお伝えしたが、新B1では、土日連戦がなくなるので、今のように土日連続で会場を占拠する状態は減る想定となっている。この点は、ぜひご理解をいただきたい。
- ・ 大規模な大会は優先されるべきである。部活動改革が進むと大会の名称も変わってくるかもしれないが、その舞台がアリーナであれば夢があると思う。
- ・ コンサートに関しては、決して否定するものではないと思う。先にスポーツ大会の予約を入れることができれば、それを外して誘致することが考えられる。仙台に来るようなアーティストが、秋田のアリーナでライブ・コンサートをやるとなれば夢のような話だと思う。経済波及効果も期待できる。
- ・ 吹奏楽もアリーナで演奏会が開催できれば良いと思う。しっかりとしたアリーナを整備すると音響は相当良い。

<委員>

- ・ イベントやコンサートは空き状況に応じて開催することとし、アマチュアスポーツ優先の利用とするのが良いと思う。
- ・ 障害者スポーツについても、全国予選、東北予選、県予選があり、それぞれ開催できれば良いと思う。
- ・ 障害者スポーツが後回しにされる傾向があるので、お互いに納得ができるところで日程調整することができれば良い。

<委員> ※途中退席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ プロスポーツチーム（アマチュアトップチーム）のホームでの興行は、秋田の誇りである。まず優先されるべき。
- ・ 高校、中学の大会は最後の聖地というレベルでの使用として、予選レベルは併設される体育館の使用とする。県内の他の体育館（サブアリーナ）の活用促進となる。
- ・ コンサートや展示会などは業界団体の運営参画が必要だろう。公的な管理運営体制では招致がおぼつかない。

<委員> ※欠席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ スポーツ協会としては、新県立体育館は、大規模なスポーツ大会の誘致、大会運営のしやすい受け皿として発信し、活用したい。
- ・ コンサートの開催について、スポーツ大会の誘致や運営に支障がなければ良いが、コンサートの優先開催が新体育館の売り物になってはいけないと考える。

<委員> ※欠席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ スポーツイベントの会場としての利用を優先すべきと考える。スポーツ立県、県民の健康増進、競技力の向上をリードする拠点として位置付けるとすれば、コンサート会場として利用することは優先順位が下がるのではないか。
- ・ 学校体育連盟の大会等の開催については配慮いただいているものと捉えているが、11月の利用が過密であり、開催の調整が求められると感じた。

<委員長>

- ・ 年間52週しかないもので、どうしても取捨選択は必要になるが、コンサートを選択肢から排除する理由はないということだろう。その上で、優先順位としては、スポーツ利用を軸に置いてスケジュールを考える方向に議論が収束していくのだろうと感じた。

③ 駐車場の考え方について

<委員>

- ・ 既存のバスを利用する方法もあるが、人がバス停に集まることでセキュリティの人員を配置する必要が出てくる場合もある。一般の乗客もいる中で観客が殺到するということになり、長時間バス停で待ってもらう状態はもったいない。そのため、ロータリーがあるということが重要なポイントになる。バスが来るまでの間、屋外のバスケットボールコートで遊んだり、キッチンカーで飲食を楽しむなど、民間のアイデアが活用できるようになると良い。
- ・ 県外のサッカースタジアムの周辺では、サッカーの試合がある時に、戸建て住

宅の駐車場を時間貸しできるアプリの活用が進んでおり、大会中は料金を値上げすることもできる。敷地内の駐車場だけにこだわるのではなく、周辺の空きスペースを活用することも考えて良いのではないか。

<委員>

- ・ 土日にスポーツ科学センターで練習をしていると、路上駐車が目立つときがある。新体育館ができたならさらに増えると思うので、駐車場は必要である。
- ・ 試合時間が決まっているプロバスケットボールの場合は、臨時バスの対応が可能であり、試合時間が決まっていないスポーツの場合は、駐車場と結ぶ無料バスなどの対応が良いと思う。

<委員>

- ・ 資料にある駐車可能台数の数字をみる限りは大丈夫なように思えるが、実は満車となっていることが多く、あまり信用することはできない。
- ・ プロスポーツであれば、シャトルバスで輸送してもらうなどの工夫ができると思うが、中高生の大会の場合は、保護者が会場まで送迎するので、駐車場をもう少し確保していただかないと厳しい。

<委員>

- ・ 5,000席以上のアリーナになると、その全部を附属駐車場で賄うことは現実的でないため、シャトルバスを運行するなど、知恵を絞って対応していくことが前提になると思う。
- ・ その上で、公共交通の活用も考えられるものの、迷惑駐車等周辺環境への問題は必ず出てくると思われるため、一定規模の駐車場は必ず必要であると感じる。実際、市の施設でも悩んでいる問題でもある。
- ・ 必要台数については、八橋運動公園や市立体育館で大規模イベントがあった開催された場合の状況なども参考にしながら議論する必要があると思う。

<委員代理>

- ・ 県民意見にもあったが、全県から集まる、あるいは、アウェーツーリズムで県外から来る観客を考えると、ある程度の駐車場は確保しないとならないと思う。
- ・ 現状では足りないという状況なので、新体育館の整備に当たっては、旧文化会館の跡地も含め、様々な議論をして、新たな駐車場を確保するという事も検討していかなければならないと思う。
- ・ こうした大規模な施設を整備するとき、タクシーの動線が全く検討されないケースがあり、あきた芸術劇場ミルハスも、タクシーをどこで待てば良いかわからない。ロータリー整備の話があったが、新体育館では、タクシーや車の送迎への対応を検討してほしい。

<委員>

- ・ 理想としては、駐車場はできるだけ多くしたいが、八橋運動公園であれば、大型駐車場を整備することは難しいと思う。
- ・ コロナの影響が収まった今シーズンは、観客数が平均3,700人となっており、交通対策にかなり力を入れている。臨時駐車場として、こまち球場を3月まで使用しているが、徐々に認知され、利用実績は200台を超えるまでになった。そこからシャトルバスでアクセスするという対策を講じている。

- ・ 路線バスも増やしていただくようにバス会社をお願いをしているが、運転手不足という問題があり、増やしたくても増やせないのが実情のようである。もともと本数が少ない土日祝日に増便するという事は難しいのではないかと。
- ・ 試合会場から15分程度のところに大規模な駐車スペースを確保できないか思案している。他県のプロサッカーチームでは、2,000人規模の大型駐車場を徒歩35分の場所に確保している。今後の技術革新を考えると、自動運転のバスを走らせるような仕組みも可能ではないかと考えている。

<委員>

- ・ 駐車場はある程度必要と思うが、渋滞が心配である。また、他の委員が指摘するとおり、資料に示されている駐車場は全部使えるわけでもない。
- ・ 駐車場の料金を徴収している事例は参考にして良いと思う。
- ・ 障害者の場合、車いすの座席と駐車場の台数は必ずしもイコールではない。選手は、車いす利用者ということもあり、競技者数が増えるほど自家用車も増えるので、そうした配慮も必要である。体育館に一番近いところに駐車スペースが必要になるし、送迎車両に関しても、駐車場が混雑しないよう動線を確保する、乗降のための場所の整備も必要になるなど、駐車台数以外にも検討課題が多い。
- ・ シャトルバスや路線バスについて、障害者が利用しにくいバスもあるので、例えば、事前に利用状況を調査し、ニーズに合わせて福祉車両を手配することも必要になるのではないかと。

<委員> ※途中退席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ イベント時にはパークアンドライド方式を採用する。地元公共交通との連携。
- ・ ウォークアブルなまちづくりがトレンド。
- ・ 分散しないと駐車場渋滞が発生する。

<委員> ※欠席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ 公園内に大規模駐車場を整備すれば、試合終了時の一斉出庫による渋滞を招きかねないことから、駐車場は大会運営に必要な最小台数の確保で良いと思う。
- ・ スポーツ大会や各種興行の際に、秋田駅から八橋地区までの回遊ルートを作り、観客等にお金を落としてもらう取組が重要と思う。

<委員> ※欠席委員から提出された意見書を事務局が代読

- ・ 建造物の面積によって駐車場の面積が決まってくることになるが、秋田駅周辺などの駐車場からのシャトル輸送などを組み合わせることで、駐車の問題も緩和されるのではないかと。
- ・ 冬場の除排雪、雪捨て場（堆雪場）のスペースも必要であり、冬期間のイベント開催には一層の工夫が必要だと考える。

<委員長>

- ・ 駐車場については、論点が幾つかある。一つは、渋滞と違法駐車である。スポーツ観戦者以外の方に影響が出てくる上、事故のリスクも高まる。また、周辺住民の不満につながることに留意しなくてはならない。それらを踏まえ、事務局から、現状のキャパシティを説明し、他県の事例も紹介していただいた。
- ・ 委員の意見を踏まえると、基本的には今のキャパシティでは足りないので増やす必要があるが、増やせば増やすほど、渋滞や違法駐車のリスクは高まる。よっ

て、合わせ技が必要になるわけだが、有料化は、抑止力にもなるため、検討する余地があり、それによって、徒歩やタクシーの選択肢も出てくる。

- ・ アプリや電子掲示板を整備し、できるかぎり渋滞を発生させない仕組みを作る必要もある。アプリで事前予約制にして料金を徴収するという方法もあるだろう。いずれも大それた技術でなく、身近な技術で改善できるものである。

④ 本日の意見を踏まえた次回検討委員会の論点の整理

<委員長>

- ・ 一つ目の論点については、事務局から最小と最大の2パターン示された。委員の意見を聞くと、財源を重視するパターンに傾いているように思うが、事務局には、2つの仮プラン以外の可能性を探ってもらい、幅広く検証した結果を次回以降に提示していただきたい。
- ・ 二つ目の論点については、委員の意見はほぼ同じであり、優先順位としては、スポーツ利用中心が良いということであった。
- ・ 三つ目の論点については、八橋運動公園を中心に議論をしたが、他の場所はどうであるか、駐車場の観点から再度検証する必要がある。

(4) その他

事務局から、次回の検討委員会をゴールデンウィークの前後の週とし、今後、各委員と日程調整して決定することについて説明した。

また、県民意見の募集を8月まで継続して行い、都度、本委員会に提示して検討に活用していくことを確認した。

以 上